

受験勉強と「作用反作用」

小岩利夫

十二月二四日に行われる全国高等学校バスケットボール男子の大会（ウインターカップ）に、東京都予選で本校のバスケットボール部が準優勝し出場することになりました。夏のインターハイ予選で、惜しくも四位となり出られなかった悔しさがバネになり、今回の結果に繋がったのだと思います。

都の高等学校男子バスケットボール大会の参加校数は、三二〇校前後と多く、上位校に残ることも簡単ではありません。試合中、選手の動くスピード感と攻守の選手がぶつかり合う迫力はバスケット特有の魅力です。また、試合前の練習で、何人もの選手が色々な角度から一斉にゴールめがけてのシュートを見るのも楽しいものです。強いチームになると、数多くの球が、スパスパと心地よい音を立てながら連続でリングに吸い込まれます。綺麗に放物線を描いて、高く吹き出している噴水を、反転映

像で見ると、とても不思議な楽しさを味わえます。

なお注意して見ると、選手はシュートを放つ瞬間に、肘と手首を上手に使って、球の後ろから見て下向きの回転をかけています。簡単にシュートをしていると思っていれば、このような回転を掛けたのです。球がリングに触ると回転で、リングから球に下向きの反作用力が加わり、外にはね返る力を押さえ、リングに向かう力が強くなります。これが作用反作用の法則と言うものです。手で壁を押すと壁は手をその力で押し返すことから分かるでしょう。華麗なシュートには、ボールの回転による作用反作用の力が働いていることを分かって頂けたでしょうか。

受験勉強も、勉強量を球の回転と同じに考えれば、目的の学校に合格することがゴールになります。結果が出るまで分かりませんが、これからも粘り強く勉強し、作用反作用の法則で頭の回転を良くして、希望校に合格してください。